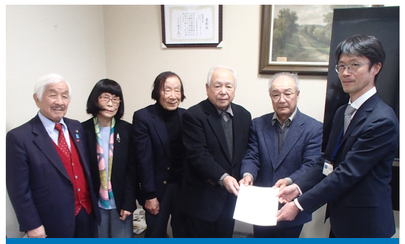
[GENKI★YAMANASHI] TOPICS ★AGGRESSIVE★



野猿返しの長年にわたる要望が叶い完成し、地元長坂町富岡の皆様が県に感謝状を贈りました。



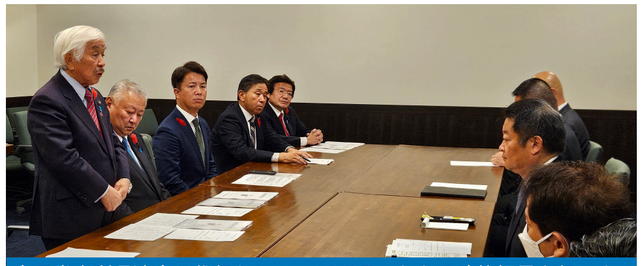
白州町台ケ原地区の地元の皆様と電柵の延長の早期着工を要望しました。



高根町 箕輪堰の役員の皆様と共に要望書を県に提出しました。



白州町サントリー隣接地に、日本最大の水素社会の実現「やまなしモデルＰ２Ｇシステム」の現地調査を行いました。



自民党山梨県連会長代行として、46項目にわたる政策提言を行いました。



高根町清里地域の皆様からの要望で、景観形成について現地調査を行いました。



大阪大学大学院医学系研究科・医学部　遠藤誠之教授より妊娠した日から赤ちゃんの2歳のお誕生日の1約000日間、妊産婦さんを見守る研究について学びました。



四川省ー山梨県友好提携四十周年記念大会に山梨県議団 議長ほか6名が参加しました。

浅川カニプロフィール

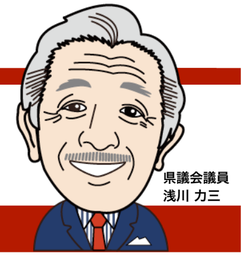
昭和22年7月8日生
昭和41年／須玉商業卒業
昭和45年／拓殖大学卒業
昭和49年／昭和薬科大学卒業
平成10年／高根町議会議員 初当選
平成13年／高根町議会副議長
平成15年／県議会議員　初当選
平成17年／決算特別委員長
平成18年／出資法人調査特別委員長
平成19年／
農政商工観光委員長企業会計決算特別委員長
平成20年／総務委員長
平成21年／第105代県議会副議長
平成23年／第120代県議会議長
平成26年／予算特別委員長
平成27年／リニア議連研究委員会 委員長
平成28年／山梨県監査委員

■地域振興
昭和59年／八ヶ岳青年会議所
創立メンバー 副理事長
平成9年／清里小学校ＰＴＡ会長
平成16年／清里観光振興会長
平成18年／山梨県雪合戦連盟会長
北杜肝友会　相談役
平成21年／北杜ライオンズクラブ 会長
オール山梨青年会議所シニア会長
公益社団法人やまなし観光推進機構 副会長
平成22年／県共同募金会 会長
県緑化推進機構 会長
平成23年／産業技術短期大学校　後援会長
平成25年／ NPO法人 ボールラッシュの会 会長
一般社団法人　北杜市観光協会 会長
平成26年／山梨県躰道協会 会長
第10回ヤーコンサミットin八ヶ岳会長
平成27年／県自転車競技連盟　会長
県都市計画審議委員
平成28年／県立北杜高等学校同窓会　会長
平成30年／東京オリンピック・パラリンピック
山梨県実行委員会副会長
令和7年／八ヶ岳南麓活性化協議会 会長

2025年12月29日　発行責任者：浅川力三　〒407-0301 北杜市高根町清里3556　TEL&FAX:0551-48-5588

Activities 第90号

浅川力三 県政だより



県議会議員
浅川 力三

誠意・熱意・創意・勇気を持って「熱き心の郷土愛」

「全力で暮らしを守ります!」

皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年の漢字が令和７年12月12日に発表され、「熊（くま）」に決まりました。

東北地域を始め全国各地で熊の目撃情報が相次ぎ、人的被害も300人を上回り、死者も10人を超えています。また、市街地にも熊が出没し、小中学生の学校生活やスポーツ活動も制限せざるを得ない事態となっており、東京商工リサーチの調査によると、東北地方の28.9%の企業が企業活動に影響があると回答するなど、経済活動にも支障が出ています。

このような状況を目の当たりにすると、私は、クマの捕獲を行う人員の確保・育成などの対策により、住民の皆様が普通に暮らしを送ることができるようにすることこそが、最も大事だと思わざるを得ません。

さて私は、国民の皆様が物価高や災害などの暮らしの危機に直面している中で、国政においては、この問題に真摯に向き合うことなく地域の皆様の声を疎かにしてきたことが、自民党が参議院選で大敗した原因の一つだと、常々訴えてまいりました。

こうした中、10月21日に女性初の高市内閣総理大臣による内閣が発足し、高市内閣総理大臣は、所信表明演説の中で、最優先課題として国民が直面している物価高への対応を掲げ、12月16日には総合経済対策として、18兆3034億円の補正予算が成立し、電気・ガス料金への支援費用や子育て世帯への支援としての２万円給付、地方公共団体がお米券の発行などに使う支援金などが予算化されました。



更に山梨県でも、国と連動した支援を速やかに行うため、物価高騰などで半数近くが赤字となっている「医療機関や福祉施設の支援」と、「生活困窮者への支援」、「子育て世帯への支援」の３つを柱とする92億円余の補正予算が、12月県議会で成立しました。

これまで住民の皆様の命や安全を守るため、地域の声をお伺いしながら汗をかいてきた私にとって、この度の国や県の物価高対策を始めとする総合経済対策は、時宜を得たものとして大いに歓迎し、迅速な施策の実行を求めるところであります。

私は、12月12日に県議会において一般質問を行い、地域の元気を取り戻す、そして地域の暮らしを守るということを第一に、「肝炎対策」、「少人数教育の推進」、「管理捕獲従事者等の確保・育成」「県有林の有効活用」、「農業の担い手の確保」、「中部横断自動車道長坂以北における県の取り組み」、「北杜市内の道路整備」などについて、知事を始め県執行部から前向きな回答を得ることができました。

（次頁～参照）

ところで、令和７年の流行語大賞は、「働いて働いて働いて働いて働いてまいります／女性首相」だそうですが、私も、住民の皆様の暮らしを守るための課題解決のため、これまで以上に全力で行動してまいります。

皆様には、これからも暖かいご支援と、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

１.肝炎・肝がん対策：沈黙の臓器を守り「完全な克服」を目指す

【浅川】　本県はかつてC型肝炎ウイルスの感染率が高く、多くの方々が肝疾患に苦しむ姿を目のあたりにしてきた。初当選以来、肝炎・肝がん対策をライフワークに掲げ、平成24年には本県初の議員提案による「山梨県がん対策推進条例」の制定に尽力するなど、患者やご家族の不安軽減に努めてきた。現在、肝炎対策は着実に進展しており、特にC型肝炎は県立病院機構の小俣政男理事長が開発に携わった画期的な治療薬により完治が可能となった。小俣理事長が「昭和天皇記念学術賞」等を受賞されたことは、県民として誠に誇らしく、深甚なる敬意を表するものである。本県の肝がん死亡率は減少しているが、罹患率は依然として全国平均より高く、継続的な取り組みが求められる。肝臓は「沈黙の臓器」であり、早期発見が極めて重要である。ウイルス性肝炎の早期発見・早期受診に向けた県の現在の取り組みを伺う。



【答弁】　県では「山梨大学医学部附属病院」の肝疾患センターと連携し、早期発見のための検査や受診の促進に取り組んでいる。検査の必要性については、ヴァンフォーレ甲府の試合会場やラジオ、SNS等で広く啓発している。特に無症状の感染者が多い働き盛り世代には、大規模商業施設での無料簡易検査や健康相談を実施している。さらに、保健所では夜間の無料検査を実施し、昨年度の受検者数は前年度を上回った。早期受診に向けては、989名を「肝疾患コーディネーター」に認定し、精密検査の勧奨や公的制度の説明など、きめ細かな支援を行っている。経過観察となった方へも市町村と連携して継続フォローを行い、精密検査の無料化や医療費助成により負担軽減を図り、重症化予防を徹底していく。
（感染症対策統括官）

２.県有林の有効活用：民間活力を呼び込み地域の賑わいを取り戻す

【浅川】　明治天皇から御下賜された県有林は県土の35%を占め、本県の発展に寄与してきた。しかし地元・清里では保養施設の撤退により未利用地が増加している。これまで、県有林の活用を公的利用に限定せず、営利目的も含めた民間利用を解禁すべきだと提言してきた。令和6年4月の規則改正による民間利用解禁は地域活性化への大きな一歩だが、新規貸付が低調な現状は憂慮すべき事態である。八ヶ岳南麓の豊かな自然、特に標高を活かした高所トレーニング施設など、都市部にはない魅力を積極的にPRし、民間活力を取り入れるべきである。今後、未利用県有林の有効活用に向けてどのように取り組むのか伺う。

【答弁】　未利用地の活用に向け、貸付を営利企業にも開放し、賃料収入に加え周辺地域の活性化に資する新たな取り組みを開始した。別荘地「清里の森」でも、静かな環境を守る等の条件付きで営利利用を可能とした。しかし、現在の応募は数件に留まっており、背景には物価高騰等による事業者の慎重な姿勢がある。そのため、県は事業者が中長期的な視野で判断できるよう、インフラ整備計画や観光動向などの情報を積極的に提供する。加えて、小淵沢地区では「馬のまち」をコンセプトにしたビジョンを策定し、地域全体の魅力を高めることで、民間投資による地域活性化と県有林の有効活用を加速させていく。（森林環境部長）

３.野生鳥獣対策：管理捕獲の担い手を確保し、人身被害を防ぐ

【浅川】　ニホンジカ等の野生鳥獣による農林業被害は深刻であり、最近では北杜市を含む各地でクマによる人身被害が多発している。これらの対策の要は県猟友会だが、担い手の高齢化が進み、今後の対策の停滞が危惧される。特にクマ対策では市町村長による緊急銃猟が開始され期待が高まっているが、新たな担い手には免許取得や猟銃所持の費用負担、捕獲技術の習得など、多くのハードルがある。管理捕獲従事者の確保・育成に向けた県の取り組みを伺う。

【答弁】　人材確保に向け、狩猟免許試験の予備講習や射撃教習、ハンター保険への助成を行い、負担軽減に取り組んでいる。また、SNSによる発信強化で免許取得者の裾野を広げる。育成面では、ライフルの射撃技術向上のための助成や、ベテランによる現場実技指導を実施し、若手の実践力を高めている。喫緊の課題であるクマ対策についても、専門技能の研修や緊急銃猟の訓練を行い、市町村の体制づくりを支援する。さらに、令和11年度の完成を目指し、韮崎市と連携して「管理捕獲従事者等研修施設」を整備し、県が先頭に立って担い手の確保に邁進する。（森林環境部長）

４.医療機器産業の推進：全県ファウンドリー化と世界市場への挑戦

【浅川】　「メディカル・デバイス・コリドー構想」の発表当初からその将来性に注目してきた。県内企業が手術支援ロボット等の製造に取り組む事例が大きく報じられ、県と企業との高い信頼関係を誇らしく感じている。医療機器市場は世界で約90兆円規模に達し、今後も成長が見込まれる。県全体で製造受注を担う「全県ファウンドリー化」や、巨大市場である米国への展開は、本県産業の更なる発展に有効な戦略である。市場の将来性を踏まえ、構想の更なる進展に向けた決意を伺う。

【答弁】　本構想は、企業参入の促進から、本県の基幹産業として高い収益をもたらす新たなフェーズへと進化している。高度医療機器の一括受注や工場新設が進み、サプライヤーまで広く効果が波及している。今後は、世界最大の米国市場への展開を加速させる。10月に開催した「富士・カリフォルニア リーダーズサミット」では米国の地方政府から強い関心を得た。現在、複数の団体と連携に向けた協議を行っており、1月下旬には職員を派遣して具体的な連携を調整し、日米企業による交流会を開催するなど、県が積極的にハブとなり、国内外の成長力を着実に本県に取り込んでいく。（知事）

５.広域観光の展開：八ヶ岳南麓エリアを世界基準の観光地へ

【浅川】　インバウンドは好調だが、特定の国への依存にはリスクもある。北杜市を中心とする八ヶ岳エリアは、豊かな自然や体験型観光など多様な魅力を有しており、将来的な可能性は甚大である。八ヶ岳の世界的な認知度を高めるには、都心から富士山を結ぶ「ゴールデンルート」に次ぐ新たな観光ルートとして環八ヶ岳エリアを位置づけ、隣接都県とともに広域的な周遊ルートを構築し、世界へ発信していくことが不可欠である。県の所見を伺う。

【答弁】　隣接都県と連携した広域的な発信は、誘客に大きな効果がある。東京都と連携し、都心から八ヶ岳南麓へ向かうルートを外国人インフルエンサーに巡ってもらう等のPRを行っている。さらに、本年8月には山梨・長野の両県と13市町村が主体となる「環八ヶ岳連携推進協議会」を設立し、滞在プログラムや周遊ルートの創出に着手した。小淵沢の「馬のまち」コンテンツづくりや地域DMOへの支援を通じ、八ヶ岳南麓が都心から近く文化豊かな観光地であることを国内外に周知し、上質な観光地としてのブランドを確立していく。
（観光文化・スポーツ部長）



6.スポーツツーリズム：プレミア感のあるイベントで地域を活性化する

【浅川】　本県は富士山や八ヶ岳などの名峰に囲まれ、首都圏からのアクセスも良く、サイクリング等のスポーツとの親和性が非常に高い地域である。北杜市観光協会として地元の方々と協力し、サイクルイベントやハーフマラソン等を実施し、多くの来訪者を迎えてきた。こうしたスポーツツーリズムは、宿泊、飲食、土産品購入など産業全般への波及効果が大きく、山梨の魅力をアピールできる絶好の機会である。県外からの来訪者を呼び込むスポーツツーリズムの更なる推進について伺う。

【答弁】 スポーツツーリズムは本県の主要な観光形態の一つである。県では、普段自転車で走れない南アルプス林道や雁坂トンネル避難抗をイベント時に特別開放するなど、「プレミア感」のある創出に取り組んでいる。併せて特産品の提供や地域で使えるクーポンの発行により回遊性を高めている。昨年度のサイクルイベントでは県外参加者が9割を超え、その約8割が県内に宿泊するなど、確かな経済効果が認められた。また、街中で楽しめるアーバンスポーツ（ブレイキン等）への支援も強化し、前回の1.5倍となる集客を達成した。自然のフィールドと街中という両方の舞台を活用し、本県の魅力を高め、地域活性化に繋げていく。（石寺副知事）

7.農業の担い手：待ったなしの減少に「多様な確保策」で立ち向かう

【浅川】　農業生産額が33年ぶりに1,200億円を突破した一方で、農業従事者の減少は極めて深刻である。特に「基幹的農業従事者」は前回調査から16.7%も減少しており、まさに待ったなしの状況である。地域農業を維持するためには、企業の農業参入や農業法人の育成、そして担い手のニーズに合わせた基盤整備が急務である。企業の参入推進や、後継者不在の農地を引き受ける法人の支援に携わってきたが、多様な担い手の確保にどう取り組むのか伺う。

【答弁】 本県農業の振興には、新規就農者、企業、農業法人といった多様な担い手を着実に確保することが重要である。新規就農者に対しては、10月に開設した応援サイト「スタート やまなし農業ライフ」を通じて適性診断や研修メニューを発信し、伴走型支援を行っている。企業の参入については既に200社以上を達成しているが、現在相談中の35社についても地域計画に基づきマッチングを進める。また、地域農業を支える農業法人には、機械整備の支援や専門家派遣による経営強化を支援する。さらに、分散した圃場の集約や区画拡大などの基盤整備を積極的に進め、生産性の高い農地を担い手に提供していく。（知事）

8.中部横断自動車道：長坂・八千穂間の「早期事業化」へ丁寧な対話を

【浅川】　中部横断自動車道は太平洋と日本海を結ぶ国土の横断軸であり、経済効果だけでなく災害時の「命の道」となる極めて重要な高速道路である。巨摩地域議員連盟を立ち上げ、整備促進に向けて活動してきた。長坂・八千穂間は依然としてミッシングリンクとなっており、早期整備を求める声が強くある。本年10月に国から「環境影響評価準備書案」が送付されたことは大きな前進だが、合意形成には丁寧な対話が求められる。円滑かつ着実な事業化に向けた県の決意を伺う。

【答弁】 中部横断自動車道は新東名、中央道、上信越道を結ぶ極めて重要な道路である。長坂・八千穂間については、都市計画決定と環境影響評価の手続きを着実に進めている。年度内に都市計画案と準備書の公告・縦覧、住民説明会を実施する予定だが、加えて対話形式による説明の場も設け、地域の声に真摯に耳を傾けていく。住民参加の機会を拡大し、丁寧な対応に努めることで、関係機関と連携し一日も早い事業化に向けて全力で取り組んでいく。
（県土整備部長）

9.地域道路の整備：北杜市内の安全を守る「駒城橋」の架け替え

【浅川】　地域の発展と安全には、高速道路という「幹」から各地域を繋ぐ「枝」となる県道整備が不可欠である。北杜市内では江草岩下トンネルの開通や日野春隧道の改良が完了し、感謝している。これらの大幅な改善に加えて、鯨バイパスや清光寺坂上交差点、JA梨北小泉支所前交差点改良などについても、引き続き整備をお願いする。一方で、大武川を渡る「駒城橋」は建設から60年以上が経過して老朽化しており、幅員が狭く洪水時の災害リスクも高く、住民は早期完成を切望している。整備状況と今後の見通しを伺う。

【答弁】 駒城橋は幅員が狭くすれ違いが困難なだけでなく、橋脚が河川の流れを阻害する課題があった。そのため令和元年度に、現在の橋の上流側への架け替え事業に着手した。昨年度までに用地取得を完了し、本年6月には橋梁下部工事が全て終了した。現在は渇水期を利用し、橋梁上部の架設工事の一部に着手したところである。今後も引き続き、地元の理解をいただきながら、取り付け道路の工事等を進め、早期完成を目指して全力で取り組んでいく。
（県土整備部長）



10.水素社会の実現：「やまなしモデルＰ２Ｇシステム」を世界標準へ

【浅川】　再エネから水素を製造する「やまなしモデル」は、東京都やサントリー白州工場への導入など大きな成果を上げている。特に白州の国内最大級のシステムは、私の地元・北杜市で実現した誇らしい成果である。この山梨で培った技術やノウハウの結晶であるシステムを、海外展開も含めて導入拡大していく戦略を伺う。

【答弁】 システムの信頼性を高めるため、白州での挙動を細やかに検証し、高度な負荷追従の運用ノウハウを蓄積する。併せて、技術開発により製造コストの引き下げを図り、企業が取り入れやすい価格帯の実現を目指す。さらに、国の価格差支援制度（CfD）の活用を目指し、東京都、福島県、群馬県等と連携した広域水素ネットワークの形成を進める。海外ではインドやブラジル等をターゲットに展開し、来年4月に山梨で開催する「国際水素サミット」を通じて、本県の技術を世界の「標準」へと高めていく決意である。（知事）

11.少人数教育：25人学級を基盤に「探究的な学び」を充実させる

【浅川】　これまで一貫して、子どもたち一人ひとりに寄り添った少人数教育の拡充を訴えてきた。来年度に小学校全学年で「25人学級」が実現することは、山梨の未来を切り開く礎となる。少人数環境を活かした「探究的な学び」の充実や、教育DXによる個別最適な学びを支える指導体制、そして中学校における少人数教育の在り方について検討状況を伺う。

【答弁】 来年度からの小学校全学年25人学級は、教育の質をさらに高める新たな段階である。この環境を活かし、教科横断的な探究学習や、文理融合の「総合知」の育成を推進する。「授業時数特例校制度」の活用を支援し、学校が探究学習の時間を柔軟に確保できるよう努めるとともに、教員の研修も充実させる。中学校については、教科担任制であることを踏まえ、小学校とは異なる視点での検討が必要である。小学校での成果と課題を丁寧に検証し、より良い学びを保障する形を慎重に探っていく。
（教育長）



北杜市立高根西小学校、秋の大運動会にて激励の挨拶をしました。



日本陸上競技連盟の公認コースとして認定された「第1回 八ヶ岳高原ハーフマラソン」を9月7日に開催しました。
参加した約760名のランナーたちは、心地よい風を楽しみました。



9月27・28日、北杜市で「第2回八ヶ岳高原ロングライド」開催。約650名のサイクリストが参加した。好天の下、絶景や地元グルメを楽しみ激坂を走破。秋の高原を駆け抜け、北杜市の魅力をアピールしました。



今回で最後のよさこい祭りにて挨拶しました。



2025フェスタ まきばにて地元議員として挨拶しました。



山梨県馬術競技場の運営管理に大変ご尽力いただいた、新井ゆたか前消費者庁長官（元山梨県副知事）に北杜市観光協会及び県馬術競技場理事長と合同で感謝状を贈呈しました。



2025年10月19日県馬術競技場にて信玄棒道ウォークを開催。約300名が参加しました。



10月5日に八ヶ岳トラバースを北杜市観光協会として今年も開催しました。100名を超える参加者が、サンメドウズ清里スキー場をスタートに天女山や観音平を駆け抜けて健脚を競い合いました。





仁生園の秋祭りにて理事として挨拶をしました。



2025年11月9日　増富もみじ祭りウォークに参加した約300名の皆さんは美しい紅葉を楽しみました。



北杜市安協の坂本会長と地元の代表者と共に小淵沢町女取地区の交差点改良の要望書を県警に提出しました。



県馬術競技場のサポートクラブメンバーと共に年2回の環境整備を早朝から行っています。



今年も大勢のボランティアのご協力をいただき秋の美し森における環境整備を実施しました。



私学振興議員懇話会にて、会長として挨拶をしました。



山梨県立私立幼稚園教職員研修大会にて挨拶しました。



第1回から第3回まで実行委員長を務めたことばの学校は20回で終了。今回同窓会を開催しました。



山梨県立北杜高等学校創立110周年記念式典に、実行委員長（同窓会長）として挨拶しました。